



# 寺田接骨院だより

寺田接骨院 ☎ 55-0876 寺田鍼灸院【予約制】 ☎ 53-8761 城陽市寺田樋尻48-41 《近鉄  
寺田駅西側商店街内隣り動物病院、前割烹「十両」様 ※パソコンHPは城陽市寺田接骨院で検索!!

先般は大規模地震にて震災の被害にあわれた方々に深くお見舞い申し上げます。一日も早く復興をされるよう、心よりお祈り申し上げます。



## みやもとむさし ささきこじろう がんりゅうじま 宮本武蔵と佐々木小次郎が巖流島で決闘した日

その昔、武士の間ではよく“決闘”が行なわれていたようですが、今から399年前の**1612年4月13日**は、日本で最も有名な決闘と呼んでもいい『宮本武蔵と佐々木小次郎の巖流島での決闘』が行われた日です。

時は江戸時代初期、関門海峡に浮かぶ“船島”において、当代一の剣豪を決める決闘が行われました。一方は二刀流の使い手である“宮本武蔵”、そしてもう一方は、燕返しつばめがえの名手である“佐々木小次郎”。実は、お互いの弟子たちのけんかが原因で決闘することになってしまいます。しかも、この決闘に負ければ命がなくなるのを知っての勝負。



そして決闘当日！ 小次郎は時間どおり船島で待っていましたが、いくら待っても武蔵は姿を現しません。小次郎はそれにイラつきます。そして、ようやく武蔵が現れるやいなや「さっさといくぞ！」と小次郎は刀を抜きました。武蔵はその動揺する姿を見て「小次郎！ 敗れたり！」と叫び勝負に勝ったといわれています。



ところで、この決闘にはまだ解明されていない部分が多くあるようです。例えば、この決闘を先に申し込んだのは武蔵だったのか？ それとも小次郎だったのか？ また、島には見物人がいたのか？ 真相は未だに不明な点が多いようです。こういった謎に包まれた部分が人々に興味を与え、様々な書物やドラマで描かれているのかもしれませんがね。ちなみに“巖流島”というのは、佐々木小次郎のひん剣の流派が「巖流」だったので、そこからとって後で付けられたんだそうです。